

長坂ふれあいの
まちづくり協議会
&
神戸学院大学
ボランティア
活動支援室

発行

地域と大学をつなぐ防災情報誌

いっせーのせ

VOL.17

2025
summer

この人に会いたい！

長坂校区防災福祉コミュニティ 会長

赤松 邦哉 さん

08

世代を超えたチームワークで地域を守る



長坂地域消防団は、民間特別地方公務員として地域の防災に大きく貢献している団体です。火災時の初期消火や交通整備、消防署との合同訓練などを主な活動とし、地域の安全を支えるために日々努力を重ねています。

お話をうかがったのは、20歳で消防団に入団し、現在は団長をされている赤松さん。地域の方々によって構成される団体であるため、幅広い年代の方と連携しながら、良好なチームワークを築いているのが特徴です。世代を超えて仲良く活動でき、現場でも円滑なコミュニケーションをとることができるとおっしゃっていました。

また、消防団での経験を通して防災意識にも大きな変化があったそうです。「まずは自分の身は自分で守ること」と地域の皆さんにも力強く呼びかけています。日頃から心がけているのは、使用する器具を壊さないように丁寧に扱うこと。器具の扱い一つひとつが、活動の質と安全性を左右するとのことでした。

さらに、地域の皆さんに対しては、「火の取り扱いに十分注意してほしい」とのメッセージもいただきました。些細な不注意が大きな火災につながることもあるため、日常生活の中での意識が重要であるそうです。



消防車、消防団の器具
(長坂会館前)



なお、赤松さんは今年度より長坂校区防災福祉コミュニティの会長にも就任されました。防災活動のみならず、地域全体のつながりと活性化に向けたさらなるご活躍が期待されています。新会長としての抱負について伺うと、「無理のない範囲で、自分にできることから着実に取り組んでいきたい」と語っており、堅実で誠実な姿勢が印象的でした。

取材 林 里嬢・大島 有未（心理学部3年）

能登半島地震被災地緊急支援ボランティア

2024年元旦に発生した能登半島地震は未曾有の被害をもたらしました。復興まではまだまだ長い道のりです。神戸学院大学は計7回にわたり被災地へ学生を送り出しました。

今号では、2025年3月2日から3月4日に実施されました第7クールの活動をお伝えします。



2025年

3月2日（日）

- 能登町での仮設住宅の現状の視察
- 仮設住宅に住まわれている被災地の方のお話を伺う

3月3日（月）

- 2024年6月・9月の活動から継続して、珠洲市の被災された農業生産法人での小豆の選別作業
- 能登町での被災家屋の片付け
（荷物移動、衣類の整理・廃棄）
- 宿舍入口の車いす用スロープの雪かき

3月4日（火）

- 珠洲市の復興支援ツアー参加
（町や避難所跡、仮設住宅の視察）
- 被災した後、営業を再開された民宿への訪問

ボランティアに参加した学生の声

昨年6月と同じ場所を訪れて、1年たって活気が戻ってきているのではないかと思ったが、崩れた建物がなくなり更地になっている分、より人の気配がないように感じた。

明るく振る舞っておられて乗り込んでいるように見える人でも、心の中では全く整理できていない人がおられる。そういった方への声かけはすごく難しいと感じました。



- ❖ 日 程 2025年3月2日～4日
- ❖ 参加者数 学生6名、教職員2名
- ❖ 活動場所 石川県能登町、珠洲市

今回能登町と珠洲市を訪れ、これからも支援を継続していく必要があると強く感じました。現地の視察では、地震・津波によって崩壊、転覆している家屋や液状化により地面から飛び出しているマンホール、大きく傾いたポストなどを見学し、発災から1年以上たつ現在も街の復興が進んでいないことを目の当たりにしました。また、2024年9月の奥能登豪雨で建物への浸水や窓ガラスが破損したと教えていただき、想像していたよりも大きな被害があったことを知りました。

被災地の方のお話を聴いていく中で考えさせられたのは、心理的な負担の解消の難しさです。地域の人々のつながりが希薄になってしまったことによる孤独感やこれからどうなっていくのかといった不安感がまだまだ残っていると感じました。被災したことによる苦しさを理解することは困難であることを肝に銘じて、それでも神戸の大学生が寄り添い、求められること、できることを見つけていくことが大切だと思います。

今回参加して印象に残ったことは、出会った皆様の温かさです。大変な状況の中でもボランティアの私たちを優しく迎えてくださり沢山のお話を聴かせてくださいました。活動で聴いたお話をしっかりと受け止めて、今後の活動をより充実したものにしていきたいと思います。

報告：大島 有未（心理学部3年）



被災者の方々が互いに助け合い、協力し合うことで少しずつ前に進もうとしておられる。その背中を支え、能登の未来へと後押しできるような活動が必要であると感じた。



長坂ふれあいのまちづくり協議会の皆様
(前列中央) 川尻 幹雄 防コミ前会長

長坂防コミが 神戸市地域貢献賞を受賞

新たに創設された「神戸市地域貢献賞」の表彰式が3月に行われ、長坂校区防災福祉コミュニティが団体部門で受賞、久元市長より表彰状を受け取りました。

表彰式では、長坂地域の活動内容について次のように紹介されています。

「小学校から大学まで立地する文教地区の特性を活かし、防災訓練や防災教育など活動が続ける」「近年では神戸学院大学ボランティア活動支援室と連携した活動や、学生から見た防災に対する考えを取り入れた情報紙『いっせーのせ』発行などユニークな活動を取組む」等々。

「総合防災訓練では小中高生、大学生を含め毎年200名を超える参加者で、世代を超えて交流を進め顔の見える関係を醸成している」と評価されています。

南海トラフ地震など大規模災害の懸念や少子高齢化が進むなかで、長坂校区の世代を超えた防災活動や住民同士の交流は他では見られない特性です。これからも長坂ふれあいのまちづくり協議会を軸に、「地域・大学連携防災プログラム」を継続していきます。地域の皆様の一層のご支援、ご協力をお願いいたします。

人・地域のつながりを軸に防災力強化を 長坂ブロック防災訓練が開催されます！

主催 長坂ふれあいのまちづくり協議会・長坂校区防災福祉コミュニティ

地球温暖化による異常気象のもと、今年も出水期を迎えています。大規模な災害への備え、防災活動への人々の関心は今まで以上に高いものがあります。

下記の要領で「長坂ブロック防災訓練」を開催します。訓練がマンネリ化しないように知恵を出し合い楽しみながら、いざという時に役立つ防災訓練をめざしています。

地域のみなさん、小中学生のみなさん、多数参加されますようご案内申し上げます。



7月20日(日曜日) 10:00-12:00

[会場]長坂地域福祉センター

神戸市西区伊川谷町有瀬578-2

Tel: 078-976-9373 (電話受付: 月、木、土9~13時)

※雨天時は福祉センター屋内で開催します。



◆記念品◆ 参加者にペンライトを進呈!!

プログラム(予定)

- 1.消火訓練 消火器取扱法、放水訓練と消防車展示
- 2.家屋倒壊から「カエルさん救出作戦」
(ジャッキアップゲーム)
- 3.AEDを用いた心肺蘇生、簡易担架による搬送訓練
- 4.「VR(バーチャル)土砂災害」視聴 等々

いっせーのせ!



いっせーのせ
VOL.17

2025年7月1日発行

防災情報誌「いっせーのせ」は
長坂ふれあいのまちづくり協議会と
神戸学院大学ボランティア活動支援室が
年4回発行する情報誌です。
学生が記者となり、地域のフレッシュな
情報を発信していきます。

Publisher

長坂ふれあいのまちづくり協議会
神戸学院大学ボランティア活動支援室

Contact

神戸学院大学 ボランティア活動支援室
〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518
TEL: 078-974-1551 (大学代表)
E-mail: kgu-vc@j.kobegakuin.ac.jp